

【目指す大学の姿】

一 開学20周年。県立大学の目指す姿

小林 20年間で、3人の学長が大学の設立、法人化などを通して「大学の骨格」を作った。私は、県立大が地域の人に尊敬される大学であるべきだと思い、「信頼され、尊敬される大学」というキーワードを作った。様々な地域貢献をしてきたが、まだ点で、線や面になっていない。それを面にする事で、皆さんにサポートされる大学になるだろう。与えられた課題をクリアし、信頼されるために、将来を見据えて提案していくことを目指している。

橋本 県立大の使命の一つは、地域に根ざし、地域の歴史を背負い、米や木材など秋田のモノを今の時代にいかに発展させるか、いかに学生の中に遺伝子を作って発展

させるかだと思う。少人数教育で、こんなに恵まれた環境はなかなかない。この路線で点から線、面へ、地域の人に愛される大学であってほしい。

【学生に望むこと】 一 二人はどんな大学生だったか

小林 車が好きで、大学では工学部に進み、流体力学を学んだ。博士課程まで進学し、当時最先端のコンピューターを使い、流体の運動を数学的に計算していた。

橋本 色んな本を読んで人間を知りたいと思い、爪に火をともしようの本を買った。人のことを批判する新聞記者になるなら、自分が色んなことを調べ、誰よりも勉強しなければいけないと思った。親ごさんは、学生になったということは（勉強で）大変なんだよと厳しい育て方をしてほしい。学生時代には知る喜びを感じてもらいたいので、ぜひ、自然に身につくようにしてほしい。

秋田の未来と大学の役割



本学と読売新聞秋田支局が共催する「県大・読売講座－県大20年の研究力で秋田の未来を讀む－」（全5回）が開催されました。第1回の今回は、オープニングイベントとして、「秋田の未来と大学の役割」というテーマで、小林淳一学長と、橋本五郎・読売新聞東京本社特別編集委員との特別対談が行われました。

小林 昔は大学に入る人が限られていたので、学ぶ意欲も高かった。終身雇用が薄れつつある中で、自分で考える力をつけるために、今は50%超が大学に入学している。

【大学で何を身につけるか】

一 大学時代にどんな力をつけるべきか

小林 人間力や実行力、コミュニケーション能力に加え、相手の話したことを整理してまとめる力が必要だ。

橋本 「何をやってもかなわない人がいる」ということを知ることが大事だ。そうすると謙虚になれる。人のことをいえなくなる。

一 五郎さんは新聞のコラムなどで、様々な歴史上の偉人を紹介している

橋本 論語やギリシャ哲学などは2000年以上前に書かれているが、現代でも全く古びていない。そこから学ぶことがたくさんある。現代で言えば、中曽根康弘元首相が思い浮かぶ。101歳となった今でも毎日勉強し、常に日本はどうすればよいかを考えている姿に頭が下がる。

一 小林学長は日立製作所から県立大へ移ったが、研究のやりがいは何か

小林 研究は新しいことに挑戦するので、リスクがある。研究者は、難題に直面した時、二通りに分かれる。「まだ分かっていないので出来ない」と説明する人と、「出来るか分からないがとりあえずやってみよう」と挑戦する人。研究には当然、後者が求められる。挑戦する研究者は、たくさん失敗して、乗り越えてきた経験がある。小さいことでも成功を積み重ねることが、次のステップにつながる。

【秋田の人口減】 — 秋田の現状をどう見ているか

橋本 人口減はどこも同じ。秋田を嘆くことはない。金足農は、冬は雪で練習ができないというマイナスを背負っているから甲子園で準優勝できた。逆に困難さを背負うからできる。土地が安いし、子供を育てるなら秋田。小中学生の学力が高い。マイナスが逆によいと考えると、可能性は広がる。工夫と情熱が大事。一番大事なのはここで生まれ育ってよかった、ここをよくしたいという気持ちだ。

小林 18歳の大学進学と、22~24歳の就職のタイミングで人口が（県外に）流出しているので、大学ではこれを改善するために、県内出身の入学者を35%に上げ、県内就職率を30%に高めることを目標にしている。県内の高校を訪れて、県立大の良さをPRしている。就職では、学生に県内企業を知ってもらわなければならない。企業を回って社長の話を聞き、会社の雰囲気を知ってもらい、県内に就職したいという学生を増やしたいと思っている。

橋本 知る機会を学生に与えるというのはいいですね。



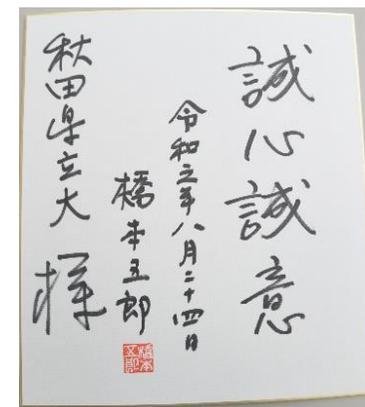
研究や夢を語る交流の場を

【今後の課題】 — 大学の課題や今後の取り組みは何か

橋本 高齢化社会をどう考えるか。高齢化社会を生きるコツはお年寄りを尊敬すること。お年寄りから経験を学ぶ。学問にしろ商売にしろ、学べるものがたくさんある。

小林 大学が交流の場になってほしい。学生を囲んで研究や夢を語る交流の場を作りたい。

地域の知の拠点として、なくてはならない存在にならなければ。大学の総力を挙げて秋田を引っ張っていききたい。一つは農業。スマート農業や山間地を中心とした小規模農業、冬でも稼げる周年農業、農業をビジネスにしていく仕掛けをやりたい。もう一つは、県南を中心としたモノづくり企業の支援を行っていききたい。



五郎さんからサインをいただきました！



小林 淳一 秋田県立大学長

1948年、長野県上田市出身。76年東北大学大学院工学研究科博士学位取得。株式会社日立製作所で主管研究員、ソリューションセンタ長を歴任し、2007年システム科学技術学部教授に就任。機械知能システム学科長、理事兼副学長を経て、2017年より現職。



司会を務めた
鴨下望美さん



橋本 五郎 読売新聞特別編集委員

1946年、秋田県琴丘町（現三種町）出身。70年慶應義塾大学法学部政治学科を卒業し、読売新聞社に入社。76年から政治部論説委員を経て、97年に政治部長。99年から日本テレビのキャスターとなり「ズームイン！！朝！」などを担当。2006年から読売新聞特別編集委員。現在、読売テレビ「ウェークアップ！ぷらす」、ABS秋田放送「五郎が斬る！」などに出演。